

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.149

2012/04/15

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

いつ森を見るかで姿は大きく変わる



日々森はその姿を変えることで、私たちの目を楽しませてくれています。一方で森の保全活動を見ると、森の姿が急変する時の状況も理解しておく必要があります。その森の姿が日常的に急変するのに最も大きく寄与するのは気象です。もちろん何千年に1回とかの地震などもありますが、ここでは触れないでおくことにします。上の写真は、北部湿原の水域が湿原全体に広がっている状態になっています。3月31日は、1日の降雨量が60mm弱でしたが湿原はこんな状態になります。各種の保全活動を考えてとき、現地の環境がどのように変化するかを把握しておく必要があります。「森の周辺地域」も含めた調査を兼ねた観察を幾つか企画しています。「森」の保全を考えてとき、周辺の状況も把握する必要があるためです。「県境滋賀県側ブナ純林」・「深坂古道」・「牧場周辺湿地」・「森の東側谷筋」・「集福寺環境保全林」等・・・。

雪解け直後は猫の手も借りたい

今年は雪解けが遅くシーズン明けまでの日が少なく、残雪の中観察コース整備に追われる日々が続いている。特に木柵は、設置されてから 12・3 年が経過したため昨年



観察コースの障害木伐採 (12/03/29)



木柵の補修 (12/04/07)

新設された場所以外は殆どが倒れておりその補修は大変であったが 4 月 10 日現在階段整備を除いて全コースの整備が一応完了した。これらの整備の合間に保全作業も待ってくれない。増殖中のサワラン（安藤サワラン）



サワランの植え替え (12/04/01)



南部湿原食害防止ネット設置 (12/04/02)

の植え替え・南部湿原の食害防止ネットの設置・沢の浚渫作業・天然更新試験地の整理・・・どれだけ人手があっても足りない状態である。そんな中で「ガイド養成講座」（全 10 回）や調査も待ってくれない。こんな状況の中でも来訪者は例年より出足が早い。積極的な売り込みは全くしていないのだが、口コミは大きい。自然の豊かさと整備が行き届いているとの反響だという。そう言われれば、ますます保全活動に力を入れざるを得ない。4 月以降の保全作業計画も満載です。会員の皆さんの一層のご協力をお願いいたします。



早々にネットに掛かったシカ (12/04/07)

新緑のシーズンです。ご家族でお訪ね下さい。



昨年 5 月の『山門水源の森 - 里山の再生と保全の 10 年 -』に引き続き、ガイドブック『ようこそ 山門水源の森へ』の新版と『山門水源の森』報告集 Vol.6 を出版しました。ガイドブックは、過去 10 年に及ぶ保全活動から得た情報を十分に取込み、保全活動が如何に大切であるかも理解してもらえるよう工夫しました。また付録として森の草本と樹木の花カレンダーが付いています。価格は ¥500 です。一方報告集 Vol.6 は、新しいクモの調査やカエルの地様さ・ボーリング調査などから得られた最新情報が盛り込まれています。報告集は、会員は無料（希望者は楽舎で受け取るか、郵送希望者は ¥80 切手可を伊藤会員へ連絡して下さい）。

報告集Vol.6 & 新版ガイドブック刊行